

「フクシマを忘れない！ さようなら原発 ヒロシマ集会」

呼びかけ文

2011年3月11日に発生した東日本大震災・福島原発事故から6年を迎えようとしています。被災地福島では、8万人近い被災者が、いまでも苦しい避難生活を余儀なくされています。長期にわたる避難生活は、暮らしや健康、就労など多くの不安と負担を与えています。さらに保障の打ち切りは、「棄民」政策ともいえるもので被災者に寄り添う姿勢に欠けるものです。被災者の不安解消や補償、医療の充実などを早急にはからなければなりません。また、政府は、福島原発の廃炉など事故処理にかかる費用が、従来想定約2倍となる21.5兆円と試算し、費用の一部を電気料金に上乗せすることで、消費者にツケを回そうとしています。

一方、福島原発事故以降、多くの国民は脱原発社会を求め、再生可能エネルギーへの転換を求めてきましたが、安倍政権・電力会社はこうした声を無視して、川内原発（鹿児島県）、高浜原発（福井県）、伊方原発（愛媛県）と相次いで再稼働を強行。次は、玄海原発（佐賀県）の再稼働を目論んでいます。さらに耐用年数を超えた老朽原発すら酷使しようとしています。

そのことは、福島原発事故の教訓を根本的に学ばず、事故をないがしろにするものであります。反省なき再稼働は、第二、第三の福島原発事故を招くことにつながります。あらためてフクシマの現実を見つめ、被災者に寄り添う運動が求められています。フクシマから学ぶことは、安易な再稼働ではなく、脱原発への決断です。

福島原発事故から6年、事故の風化が言われる今日、私たちは、事故を決して忘れることなく、被災者のおかれている現状を理解し、支援と連帯をしていかなければなりません。3月10日、「フクシマを忘れない！ さようなら原発ヒロシマ集会」を開催します。原発事故をなかったことにする政策に対し、放射線被害を受けた被爆地から原発も核もない未来を創るため、広島からNO!の声をあげましょう。

「フクシマを忘れない！ さようなら原発ヒロシマ集会」への参加を、心より呼びかけます。

2017年2月

<呼びかけ人>

坪井 直（被爆者）

秋葉 忠利（前広島市長）

森瀧 春子（核兵器廃絶をめざすヒロシマの会共同代表）

山田 延廣（弁護士）

岡田 和樹（ハチの干潟調査隊代表）